

平成30年4月

## 普及活動報告

---

### ～直売所をより良くするために～ 農薬使用講習会開催

(亀岡市：4日)

写真なし

ガレリア朝市の役員から「会員に対して農薬使用記録簿の記帳を依頼するために、我々が詳しく知っておく必要がある」との声があり、今回の講習会を行いました。

講習会では、普及センターが農薬使用記録簿の回収方法や農薬登録情報の見方について説明した後、役員からの農薬使用記録簿の提出日等についての質問に答えました。

今後も普及センターは、農薬の安全使用の取組について支援を行っていきます。

場 所 ガレリアかめおか

出席者数 12名

平成30年度3月現在 部会員数111名（新規就農者も加入）

---

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年4月

## 普及活動報告

---

### ～南丹市の農業振興について～ 情報交換会を定例開催

(南丹市：6日)

写真なし

南丹市は園部、八木、日吉及び美山の旧4町が合併し、農業のあり方も多様であるため、普及センターの地域担当が毎回報告する現地巡回で得た最新情報は、市役所職員にとっても貴重な情報となっています。

今回は、市から認定農業者に係る認定申請1件について提案され、局企画調整室から今年度予算や事業実施要望の状況について紹介、普及センターは昨年度の農業者等復旧応援事業の実績を報告しました。その他「京の輝き」推進に係る農業者への情報提供について協議しました。

およそ1年半実施してきましたが、情報共有を行うことで風通しのよい関係が構築できたと感じています。今後とも連携を深め、南丹市農業の振興に貢献していきます。

場 所 南丹市役所

出席者数 13名

原則毎月1日に参集することとして、平成28年度中から継続実施。

---

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年4月

## 普及活動報告

### ～ビール大麦の品質向上と契約数量達成を目指して～

### 出穂期を間近に控え、病害の適期防除に向けた現地研修会を開催

(亀岡市：9日)

亀岡市のビール麦はまもなく出穂期を迎えます。栽培上問題となる赤かび病の防除は出穂期のおよそ15日後とその7日後の2回が適期であり、出穂期の確認が重要です。室内での研修会の後に、各地域に分かれて生産組合役員とともに、出穂の早晩を含めた生育状況の確認を行いました。

研修会では「11月中旬播種と下旬以降に播種した出穂期の差が大きそうだ。防除はどのタイミングで行えば良いか」などの質問が出されました。普及センターでは契約数量達成に向けて、JAとともに出穂期の把握と適期防除について支援します。

場 所 JA京都亀岡川東支店ほか  
出席者数 24名



現地ほ場にて出穂期の確認を行う

亀岡農業振興協議会は、亀岡市、農業委員会、JA京都、南丹広域振興局、普及センターで構成。平成30年産栽培面積は約93ha（29年産：96ha）

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年4月

## 普及活動報告

### ～風霜に負けず生産を～京丹波町瑞穂 地域で実エンドウ栽培研修会を開催

(京丹波町：13日)



現地ほ場にて生育状況を確認

5月中旬の出荷開始に向けて、収量確保のための栽培管理について、普及センターから説明を行いました。霜の被害を軽減する段階的な整枝方法や、霜害を防ぐ保温資材の活用とその際の留意点を呼びかけました。

研修会では「背丈を超えた場合の農薬散布の方法は」「強風への対策はどうすれば良いか」などの質問が出されました。普及センターでは実エンドウの安定出荷に向けて、JAとともに生産者を支援します。

場 所 京丹波町保井谷  
出席者数 10名

平成29年度は、生産者数9名、面積34.5a。平成30年度も生産者数9名で、面積約35aの予定。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年4月

## 普及活動報告

### ～日量20ケース以上の出荷を目指す～ 京かんざし研究会の総会・研修会を開催

(京丹波町：17日)



普及センターが栽培の振り返りと栽培管理について説明

総会後の研修会では、普及センターから、29年度の栽培を振り返るとともに、定量の継続出荷を確実に進めるため、統一様式に播種日、出荷日、出荷数量の記帳を呼びかけるとともに、栽培管理のポイントを説明しました。

生産者からは「去年は台風や冬期の低温により栽培の難しい年であったが、今年は出荷期間中の継続出荷を行いたい」との声が聞かれました。普及センターは関係機関と連携し、安定出荷に向けて支援します。

場 所 JA京都瑞穂支店  
出席者数 25名

平成29年度は、出荷量は約2,950kg、売上げは前年比102%。  
出荷期間は8月上旬から2月末まで。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年4月

## 普及活動報告

### ～「赤色果実の1株あたり2kg収穫」達成へ向けて～京新清水唐辛子栽培講習会を開催

(全域：18日)

普及センターから、新品種として期待が高まっている「PRうまから」の試験栽培の結果説明を行うとともに、排水の良いほ場選定やかん水・追肥のタイミングなど、多収穫に向けたポイントについて、写真や図を用いながら説明しました。

今後、普及センターはJA京都と定期的に現地巡回を行うとともに、丹後地域への視察研修会を実施し、「赤色果実の1株あたり2kg以上収穫」の実現に向けた取り組みを行います。また、平成31年度からの品種切り替えに向け、「PRうまから」の特徴把握に努め、生産に向け支援を継続します。

場 所 JA京都本店

出席者数 27名



普及センターから栽培説明

平成30年度は生産者27名（前年比67%）、栽培面積65.2a（前年比73%）の予定（丹後普及センター管内含む）。市場出荷と違い、一時に収穫量が集中しても単価は下がることなく、出荷した全量は合意した単価で販売される。

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年4月

## 普及活動報告

### 南丹地域農業士会の新役員が管内市町他へ挨拶回り

(全域：19日)



新会長からの抱負（亀岡市）

名刺交換のあと若手の育成について意見交換を行い、今後の農業士活動への支援を求めました。また、今年度末に農業士7名が退任されるため、普及センターから各市町に候補者の推薦をお願いしました。

意見交換では、新役員から「若手農業者、とりわけ今後は農家子弟による継承の一層の支援が必要」などの声がありました。普及センターは、今後の若手農業者育成に向けて、農業士活動を支援します。

場 所 亀岡総合庁舎ほか  
出席者数 14名



新役員と局長との懇談（亀岡庁舎）

南丹地域農業士会会員は現在37名（指導16名、女性12名、青年9名）

京都府南丹農業改良普及センター

平成30年4月

## 普及活動報告

**～JA京都花菜部会反省会を開催～**  
**異常気象に負けない花菜生産に向けて**  
(亀岡市・南丹市：24日)



普及センターから栽培の振り返りと安定生産のポイントについて説明

京果京野菜部の猪阪部長から市況情勢や、滋賀県や乙訓地域の花菜の栽培状況の報告を受けました。また、普及センターから、29年度の栽培を振り返るとともに、30年度の安定した数量の継続出荷のため、改めて段播き（順次は種）の提案と湿害軽減技術について説明を行いました。JAからは、収穫量の目標と視察研修会の取組について提案がありました。

栽培者から、「8月に早播きした場合、問題点はあるか」「出荷規格の長さの上限と下限の目安がわかりにくい」との声がありました。普及センターでは関係機関と連携し、安定出荷に向けて支援します。

場 所 JA京都亀岡中部支店  
出席者数 36名

平成29年度は前年比、共販出荷量は79%、金額は81%。(平成29年度出荷量は5,259kg)

京都府南丹農業改良普及センター